

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

208号 2021年2月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmvolunteer.com>

2021年 みんなのねがい



緊急事態宣言中での在宅ボランティア活動から



手作り作品

*マスク

*CV用スタイ

折り紙作品

*指輪とツルとお花



木曜日の外来グループの皆さんから

コロナ禍でのボランティア活動

大倉 京子

私の活動は、正面入口に立って来院する方々に声掛けすることから始まります。

今は、大きな声を出さないように気を付けながら…

「おはようございます」即座に「おはようございます」と返してくれます。

小さなお子さんも、自ら消毒液ボトルに手を伸ばして、シュッ、シュッ。上手に手をこすり合わせています。出口から少し離れた所に立っているので帰る方達には声が届かないだろうと思いつつ

「お疲れさまでした。お気を付けて」すると「ありがとうございました」のお返事があります。

子どもたちに手を振れば、手を振り返してくれます。顔の半分を覆うマスクとフェイスシールドの着用で異様に見えるのではないかと戸惑いましたが、そんな心配は無用でした。

それどころか、皆さんこれまで以上に目と目を合わせ、笑顔で応えてくれていると感じられます。

院内ではご褒美の折り紙を渡したり、時には診療科までご案内したり、この少しの時間でお話しをすることがあります。子どもたちの楽しい話に思わず笑ってしまったり、親御さんからは感心するお話しや時には少し辛いお話も…

今は感染防止のため控えています、このわずかな時間を大切にしています。

コロナ感染症の拡大で様々なボランティア活動が自粛になっていますが、それでも正面玄関に続く花壇には絶えず綺麗な花が咲き揃っています。12月には立派なクリスマスツリーが飾られ、子どもたちの歓声が上がっていました。今年は、例年のようなお正月飾りはありませんでしたが、入口の天井には疫病退散を願う「アマビエ」が飾られ、渡り廊下に用意された絵馬には、皆さんの願いが託されています。いつもと変わらない温かな雰囲気総合待合は、普段お目にかかることのないオレンジクラブの方々の心が集まり、「絆」を感じられる場所です。

さらに、コーディネーターの加藤さん、総合案内の山藤さん、外来ボランティアの仲間と一緒に自分も「知恵と工夫でこのコロナ禍を乗り越えよう」と活動しているなかで、これまで以上に気持ちに寄り添い「心の絆」が深まっていると感じられます。

2度目の緊急事態宣言が出た今、活動は中止になりました。再開の日を心待ちにしながら、ご褒美の折り紙作りに精を出しています。

コロナ禍で、心にぽっと灯りがともるこどもの笑顔

成瀬 彩花

仕事の合間に時々お手伝いさせて頂く程度ではありますが、活動に参加させて頂くようになって、まもなく2年。来院されるお子さんとの触れ合いが、活動の一番の楽しみです。

嬉しそうに折り紙を選ぶ姿、障がいでもうまく話せないお子さんはハイタッチでありがとうを伝えてくれたり。そんなひとつひとつにいつも温かい気持ちにさせてもらっていました。

世の中がコロナ禍で殺伐とし始め、来院される方も心なしか少し減ったように感じていたある日、折り紙を選ぶと、「ありがとう」とにっこり微笑んでくれた男の子がいました。これまでも同じ場面はいくつもあったはずですが、この時はその男の子の笑顔に、心にぽっと灯りがともるような不思議な感覚を覚えました。もしかしたら知らず知らずのうちに、自分の心も世の中の殺伐とした空気に呑み込まれていたのかもしれない。私の方が元気をもらっている、改めてそう思った瞬間でした。活動に様々な制限がある現在ですが、1日も早く元通りになり、今年に来院・入院しているお子さん達の笑顔が増える1年となります様に。私自身もいつももらっている元気を返すように、自分ができる事を改めて考えながら頑張りたいと思います。



私の原動力

藤森貴美子

木曜日外来ボランティアで活動をしている藤森と申します。

私がこの活動をはじめたのはもう 15 年前、一人息子がこの病院で未熟児奇形の最後の手術を終えたあとでした。息子は今年成人式を迎えました。20 年前の 10 月…予定日より 2 ヶ月も早く、在胎 31 週 1034 グラムの超低出生体重児で生まれてきました。重度の未熟児奇形である尿道下裂があり、その手術を受けるために緊急帝王切開で生まれた市大病院から、こちらのこども医療センターの泌尿器科を紹介していただいたのです。4 回の手術を終えたあとも、息子の子育ては大変なことの連続で知的障がいの診断、基礎体力不足からの入退院の繰り返し、そして思春期を迎えてからのてんかんの発症…今もその闘いは続いています。その間、くじけてしまいそうな私をいつも支えてくれたのがこのボランティア活動でした。

仲間との楽しいおしゃべり、そして何より私と同じ悩みを持つお母さんたちとのふれあいはいつも私を勇気づけてくれました。大変なのは私だけじゃない、子どもたちもみんな頑張っている、という思いは本当に心強いものです。

私はこのボランティア活動を通じて何か自分に出来ることはないかと、こんな自分でもお役に立てることはないか、と思ったことは一度もなく、これほど長く続けられているのは、間違いなく自分が一番楽しいと感じているからだと思います。

オレンジのエプロンをつけていなければただのオバサンですが、オレンジのエプロンをつけてにつきり笑って立っていたら、かわいい子どもたちが近寄ってきてくれるのです。

そして暗い顔をしたお母さんに「うちの子もこの病院でお世話になっているの」と話しかけると急に顔が明るくなって打ち解けてお話してくださることも…

これからも自分のために、この活動を続けていきたいと思っています。

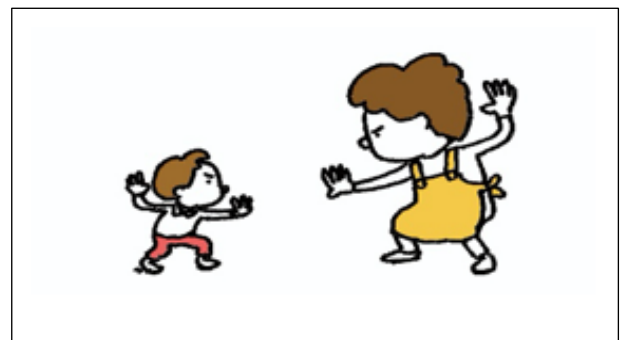
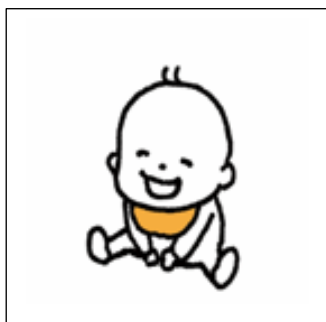
息子は今、知的障がいの人が集まってお仕事をする作業所に通って仲間と一緒に麵作りをしています。お仕事はとても大変ですが、やりがいがあって楽しそうです。てんかんと闘いは続いています。闘病生活の中で自分の命は自分だけのものではない、という一番大事な事を学んでいます。息子の病院通いが頻繁で社会参加がなかなか難しい私が、自分の出来る範囲で参加できる貴重な場を提供していただいていると、いつも病院の関係者のみなさまには感謝の気持ちで一杯です。

今、コロナ渦で活動が思うように出来ない日が続いています。それでも自分に出来る感染防止対策をしっかりと、また安心して楽しく活動に参加できる日を心待ちにしています。

一日も早く、コロナが収束に向かいますように…心から願っています。

最後までお読みくださり、ありがとうございました。

(イラストはヨシタケシンスケさんからのご寄付です。)



外来ボランティアの活動をして今思う事

本間美佳

新型コロナウイルスが発生してから1年になります。

当初はこんなに長期化するとは想像もしませんでした。未曾有の事態に私達ボランティアの活動も制限される中での新たな活動スタイルになりました。

入り口で手指消毒、問診票記入をお願いし、検温の列が長くなると声をかけたりしていましたが、1年も経つと正面入り口の検温や問診スタイルも大分変わり、スムーズになってきた様に思います。それでもファイルや面会バッジ、ベビーカーの消毒は依然として継続しています。

フェイスシールド、マスクをしていると視界が悪く聞こえづらい時があります。仕方ない事ですが、以前と比べて重々しく感じます。

コロナ前まではプレイコーナーのDVD交換や本の整理等もしていましたが、今は、プレイコーナーは閉鎖され、本棚は空になっています。一時中止していた事もありましたが、折り紙コーナーの折り紙を楽しみに子どもたちが来ます。折り紙を渡す時、季節飾りを見る時、全てにおいて様々なボランティアの方々が子どもたちの為に携わっているんだと改めて思いました。

私達外来ボランティアも限られた中で出来る事をやっていたのですが、2度目の緊急事態宣言を受け中止となりました。早くワクチン接種が出来て、コロナが収束し、やがて終息に向かいますように願います

ぽぽんたトピック㊦

きくちゃん

新型コロナウイルス感染症が広まって、小学校や幼稚園、保育園のおはなし会は中止になり、それぞれおはなしの場を失って1年近くになる仲間もいる。

キクちゃんが通っている小学校は去年6月から、おはなしの時間を再開して下さったので毎週火曜日に45分のおはなし会を行っている。広い図書室で、マスク着用の子供達は間隔を取って座る。冬は暖房があっても窓を開けているので寒い。語り手のキクちゃんとTさんはマスク着用でおはなしを語る。マスク着用は声の伝わりは鈍く、顔の表情も伝わりにくい。それを補うために、声は大きくして、表情の見えにくい分、ゆっくり語り、子供達一人ひとりと目を合わせ、おはなしを届ける気持ちで言葉を発するよう心掛けた。

本来、おはなしは生の声を届ける物なので、滑舌と発声は大切である。5年ほど前からカルチャーに通い、ヴォイストレーニングをしている。無理のない、声帯を傷つけない発声法で、今それが大いに役立っている。



お知らせ

- ① 緊急事態宣言が延長になりました。オレンジクラブの活動はその間自粛とさせていただきます。
- ② きょうだい預かり保育士が、入院の方やきょうだい児の方に「ご家族と遊べるキット」を差し上げています。3・4・5階の家族休憩室等に置いてあります。キット作成など在宅ボランティアでできる方を募集いたします。できる方は、連絡ください。(材料を郵送し、返信封筒同封します。)
- ③ 季節飾りは、感染防止策を取りながら、最小限で行う予定です。(該当者のみ)
- ④ 3月8日(月)ボランティア運営会議は開催いたします。Webでの参加を受け付けています。尚、ボランティア調整会議とボランティア研修会は中止いたします。

*皆様のご健康をお祈りいたします。a